

日本共産党

4月7日川崎市議選

高津区の市会は
あなたの一票を

むねた

裕之

宗田 ひろゆき

●プロフィール

1958年北海道厚真町生まれ。函館ラサール高校、東京工業大学、米ホープ大学を卒業。コンピュータ会社でシステムエンジニアとして働く。党神奈川県政策副委員長などを歴任し、2015年川崎市議会議員初当選。市議1期目、現在、市議会まちづくり委員会（まちづくり局、建設緑政局）副委員長。党市議団副団長。家族は妻と長女。末長在住。

民間企業で働いた頃、月200時間を超える残業で倒れ、辞めていく仲間をみて若者を使い捨てる社会に憤りを感じていた宗田議員。市職員が長時間労働を強いられ、2015年度年1000時間を超える職員が28人もいることを告発。改善を約束させました。

また、宗田議員は当選後最初の議会から、川崎市の財政は政令市屈指の豊かさを有していると論戦。市のため込み金1000億円を使えば市民要求は実現できると論戦。市も「財政が厳しい」と言えなくなっています。

子育て・福祉優先の市政へ

むねた裕之

検索



<http://muneta-hiroyuki.jp/>

証紙

安倍政権のくらし壊しから

いのちと福祉を守る市政へ



むねた裕之は 新しい市議会で全力

共産党が12議席に伸びれば、
発言力・提案力・実現力がさらに
パワーアップします。

中学卒業まで子どもの医療費無料に

所得制限・一部負担金なくす(通院)

高すぎる国民健康保険料引き下げ

当面、川崎市として一般会計からの繰り入れで、1世帯年額
1万円の引き下げを。国に1兆円の公費負担をもとめます。

特養ホーム4800人分増設、 介護保険料の減額

雇用を増やし、地域経済活性化へ

中小企業支援予算を140億円に拡充

地震・豪雨対策の推進

臨港道路1本に980億円など 不要不急の大規模開発ストップ

くらしの財源はあります

市税収入6年連続過去最大

- 2150億円の不要不急の大規模事業を見直し
- 市のためこみ金(減債基金)1000億円

10人の議員で動かしてきました

中学校給食が実現!

- 子ども文化センターのエアコン設置
- 学校トイレの洋式化全校実施
- 就学援助の入学準備金増額と前倒し支給実現
- 危険なブロック塀の改修予算増額
- 夏休みなどの、わくわくプラザの開所時間を繰り上げ



認可保育園の増設を推進

- 市の「7000人の児童受入れ枠確保」を8665人に拡大

特養ホーム5カ所増設

- 特定健診無料化へ



障がい者の夕方支援を拡充

- 障がいをもつ高齢者のショートステイ実現
- 障がい者相談支援事業費1カ所あたり人件費48万円、家補助1カ所月5万円増額

中小企業振興条例制定

防災対策の拡充

- 木造住宅耐震化補助の拡充
- 耐震シェルター、一部屋耐震に補助
- 救急隊の増隊
- 消防ポンプ車購入実現



駅・交通の改善

- 武蔵小杉駅南武線ホーム拡幅
- JR横須線武蔵小杉駅改札口の増設、エレベーター設置
- 田園都市線溝の口駅、京急川崎駅にホームドア設置
- JR中野島駅に臨時改札口設置。橋上駅舎化へ
- JR津田山駅、久地駅、稲田堤駅の橋上駅舎化へ

2150億円ものムダな大規模事業を 厳しくチェック

- 川崎港湾計画 約1310億円
- 羽田連絡道路建設 約300億円
- 東扇島堀込部埋立事業 約240億円
- 川崎アプローチ線事業 約300億円 など

市民の願いに対する各党の態度は

2015年以降の定例会市議会から抜粋(賛成○ 反対●)

川崎市会で市への請願・陳情、国への意見書への態度	自民	公明	民進	共産
安心して子どもを産み子育てしやすい街づくりを求める陳情(2016年8月)	●	●	●	○
小児医療助成制度に「一部負担金」を導入しないことを求める請願(2016年10月)	●	●	●	○
介護保険料の引き上げを中止し、払える保険料にすることを求める陳情(2018年3月)	●	●	●	○
消費税の増税中止を求める意見書(2018年12月)	●	●	●	○
「介護労働者の労働環境及び処遇の改善」のために国に対し意見書の提出を求める陳情(2019年1月)	●	●	●	○

※民進みらいの会派名は、旧民主みらい、現在はみらい

“川崎から”安倍政権に審判下し、新しい政治を

消費税10%増税の中止を

9条改憲NO! 戦争する国づくり許さない

原発ゼロの日本を

日本共産党のむねた裕之候補へ一票をお寄せ下さい